

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス ぶれみあむ やよい坂		公表日 年 月 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		事業所の広さに応じて定員数を決めています。基準以上のスペースを設けている。	今後も利用定員とスペースの関係を継続していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		基準より1名多く配置している。基準は10人を2人、ぶれみあむは10人を3人で配置しています。	今後も利用定員や子どもの状況に合わせて職員の配置する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	90%	10%	活動などによって部屋を分けたり目で見えてわかるよう情報伝達を行っている。	並ぶところに足のマークをつける。今後も必要に応じてわかりやすくしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		毎日こまめに消毒を行い、目的や活動に合った部屋で過ごしている。	今後もその時に流行っているウイルスによって消毒液を変えたり毎活動ごとに消毒を行っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		クールダウンが必要な時や急な発熱や体調不良の時は、個別の部屋を使用している。	緊急時以外も静かに過ごしたいときなどにも使用していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		学校のある日は毎回ミーティングを行い全員で業務改善に努めている。	今後もその日休みのスタッフにも記録を残しミーティングした内容を周知していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		保護者からの評価を全員で共有し、業務改善に繋げている。	集計してまとめてミーティングなどで共有し、スタッフ全員でどう改善していくか話し合い取り組んでいく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		日々のミーティングに全員で参加し意見を出し合い改善に繋げている。	記録にも残しその日休みだったスタッフにも意見が見れるようにしている。今後も継続する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		3ヶ月に1度外部の評価を行い業務改善に繋げている。	今後も緊張感をもって第三者として外部の役員が3ヶ月に一度内部監査をおこなっていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		年に複数回内部研修を行い職員の資質向上を図っている。	感染症や虐待、ニュースなどで大きく取り上げられた話題など色々な議題で今後も行っていく。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		ホームページにて公表している。	ホームページのぶれみあむやよい坂の外観写真の上にリンクを貼っている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		日々のミーティングにて話し合い計画を作成している。	課題が同じにならないように今できていることや、どうステップアップしていくかより細かく話し合い作成していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		日々のミーティングで話し合い理解、考慮し作成している。	沢山時間を使い検討が行われている。継続していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		一人ひとりの支援内容に対する日々の記録を記入し職員全員が把握し、支援をしている。	一人ひとりに合った声掛け、支援をしている。ミーティングなどでどんな支援をするのか確認していることを継続していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		毎日の支援記録やアセスメントをもとに確認している。	今後も1日の様子を見ながら日々支援記録を記入していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		スタッフ間でのミーティングや保護者様からの話し、担当者会議をもとに必要な項目を適切に設定している。	継続していく。5項目になりより細かく適切に設定している。スローステップでひとつひとつクリアできるように項目を設定している。スタッフ間でも保護者から聞いた話を話し合い支援内容を考えている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		リーダーが立案し、それをもとにミーティングで話し合いチーム全体で決めている。	今後もこどもたちが楽しみながら活動ができるように考えていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		季節の行事や内容の工夫をして固定化しないようにしている。	立案者がずっと一緒ではないので固定化されていない。今後も継続する。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		日々のミーティングで話し合い計画、支援を行っている。	ひとりで集中できる活動やみんなで順番を待ちながらする活動など新しいことを取り入れながら今後も行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		休日、長期休暇以外の午前中にミーティングを行い確認し、支援を行っている。	スタッフ間の連絡ノートも使っている。見落としのないように今後も継続する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	90%	10%	定時報告にて振り返りと共有を行っている。	今後も次の日の支障が出ないように振り返りと共有を毎日行っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	90%	10%	毎日、支援記録を記入し検証、改善に繋げている。	絵カードなどの準備物を早めに検証する。記録は毎日している。継続していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		スタッフ間や保護者様からのお話しをもとに見直しを行っている。	今後も送迎時など保護者様と直接話し細かく見直しを行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%		担当者による立案に加え、全員で把握し計画、支援を行っている。	固定にならないように努めている。今後も継続する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		活動や下校時から帰るまで様々な選択がありそれをその時の状況により負担の少ない形で選べるようにしている。	自己決定がこだわりにならないように気を付けていく。
関係機関や保護者との連携	26	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		児発管や管理者など、良く把握しているスタッフが参加している。	担当者会議をする前にスタッフからも情報を収集し参加している。継続する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		送迎時等、学校の先生と直接情報を共有している。	今後も送迎時に限らず必要に応じて担任に連絡し情報共有して支援を行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		下校時間など学校のホームページやアプリを活用し、情報を共有している。	学校の年間計画、行事予定、下校時間などいつでも確認できるようファイルにはさんでいる。継続する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%		アセスメントや相談支援員から利用前の様子や情報を聞いている。	これからも情報共有のため、保護者様からの情報だけでなく、相談支援員や園などからも細かく情報を収集していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		今までの特性やそれまでの支援内容、これから先に向けて何を意識してトライしてきたか、得手不得手などを細かく伝えている。	今後も適宜にやり取りを行い、細かく情報共有を継続していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		100%	直接の連携はないが、研修などは調べている。	今後も可能な限り必要に応じて積極的に参加していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		100%	現在機会がなくしていない。交流が難しいご利用者様もいらっしゃる。	以前していたようにバザーなど開き地域の方との活動を行っていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%		メールやインターネットなどで調べて、情報を収集している。ネットワーク会議に参加している。	ネットワーク会議などは参加している。今後も継続する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		送迎時等、保護者様とお会いする際、情報共有の相互を行っている。	今後も保護者様と密に話し日々の会話を大切にしていける。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		送迎時やいつでも連絡がとれるようにして、家族支援を行っている。	踏み込んだお話ができるように信頼関係をこれからも築いていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		契約の際に丁寧に説明をしている。	必ずしている。今後も継続する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		担当者会議や送迎時の情報共有を行い確認している。	今後も担当者会議に出席できなかった場合は書面にて情報提供を行ったり、保護者様に伺い共有していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		契約時に示しながら説明を行い同意を得ている。	これからも契約時に示しながら支援内容の説明を行い同意をいただく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		常日頃、送迎時に保護者に会える時間を大切に、たくさんお話をしている。悩み事、困りごとのある際は助言とサポートを行っている。	相談を受けたら速やかに対応している。これからも相談や悩みを沢山言ってもらえるように密の関係を築いていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%		年に1度保護者会を開催しているが、きょうだい同士の交流の機会は設けていない。	これからも年に1度保護者会を開催する。継続していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		苦情窓口を設けている。現在は大きな苦情ない。何かあれば迅速に対応している。	いつ連絡が来てもすぐに対応し改善に繋げている。今後も継続する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		ぶれみあむ新聞にて毎月発信している。	事業所からのお知らせや、活動内容など沢山発信している。継続する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		キャビネットは無いが、部屋に鍵をかけている。破棄する場合は全てシュレッダーにかけている。	鍵は南京錠を付けている。扉を開けっぱなしにせず都度鍵をかけている。鍵の閉め忘れがないように徹底する。
	44	障がいのあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		利用者様がスムーズに意思疎通ができるようその子に合った効果的な方法を保護者様と共有している。	今後もやり取りのサインやデイで見られた意思疎通の言動など、保護者様とこどもの繋がりが深まるようお伝えしていく。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100%	以前は行っていたが現在は行っていない。	以前行っていたバザーなど開き地域の方との活動を行う。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		毎月訓練を行い、保護者様にはマニュアルを配ったりしている。	今後も保護者様への周知は定期的に行いマニュアルも定期的に配る。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		毎月決められた日に避難訓練を行い、3ヶ月ごとに備蓄点検を行っている。	利用者様と一緒に避難訓練を毎月行っている。今後も毎月継続していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		管理者ケータイや送迎時など保護者様からの情報提供により確認を行っている。	発作など起こった時の対応など細かく確認している。今後も継続する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		医師の指示書などが必要な方はないが保護者様からの情報や指示を伺い、対応している。	今は食物アレルギーのご利用者様はいないがアレルギーが分かれば保護者からの情報提供により対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		安全管理マニュアルをスタッフ全員が持ち歩き、支援を行っている。	定期的に研修を行っている。形だけのマニュアルにならないよう努めている。今後も継続する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		保護者会での説明や安全管理マニュアルを配布し、周知している。	安全管理マニュアルを定期的に配布し説明し連携がはかれるようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		毎月ヒヤリハットを記録し、ミーティングで話し合い、休みのスタッフも記録を読むことで全員で共有している。	今後もヒヤリハットを活かして再発防止に努めていく。何でも言い合える環境づくりを目指していく。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		年に複数回研修を行っている。当事業所だけでなくニュースなどで大きく取り上げられていくことがあれば、ミーティングで話し合いや研修をし、意識向上に努めている。	今後も研修やミーティングの議題に上げるだけでなく、他人事にならないように、感覚のズレなどないか、スタッフがお互いに意識できる環境を整えていく。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		100%	原則として拘束はしない	今後も保護者様に身体拘束禁止マニュアルの周知と、内部研修として様々な内容でスタッフへの教育を行っていることもお伝えしていく。	